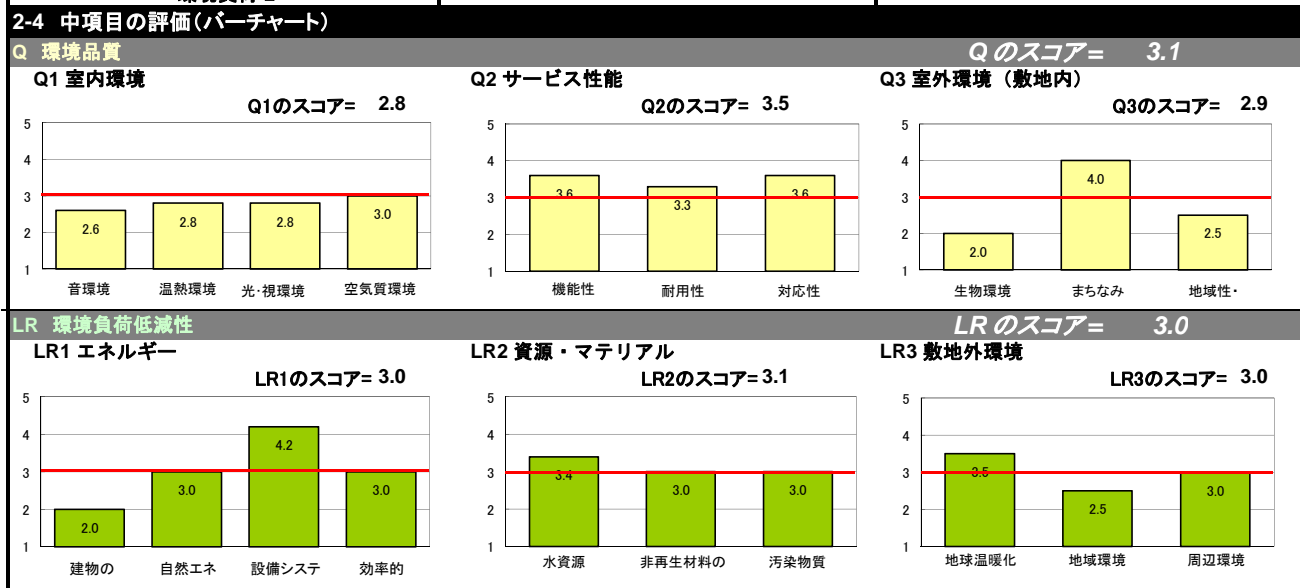
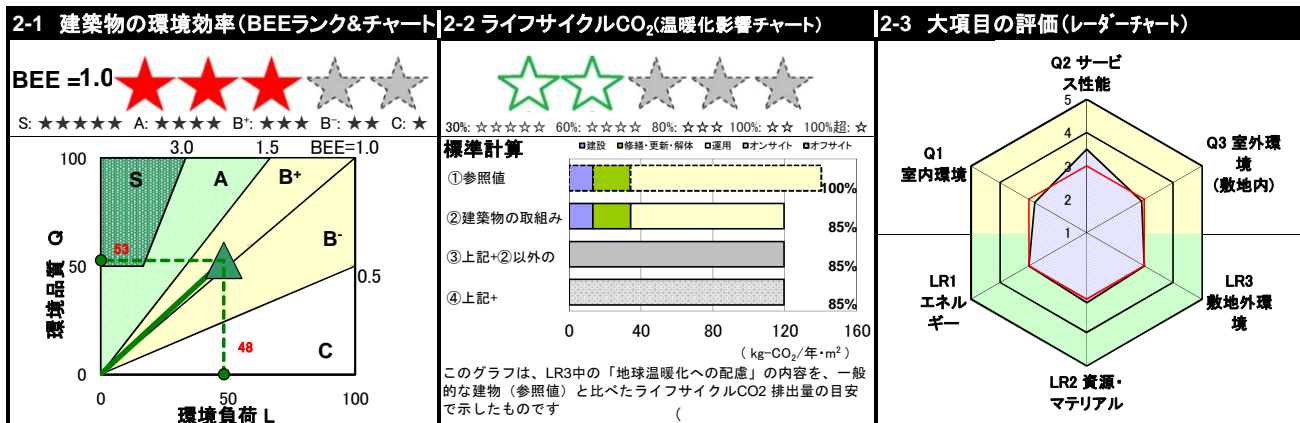


# CASBEE<sup>®</sup> 新築[簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	舞鶴医療センター精神棟	階数	地上2階
建設地	舞鶴市字行永大道2060-4他7筆	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	120 人
気候区分	地域区分Ⅲ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年11月 予定	評価の実施日	2011年2月28日
敷地面積	57,118 m <sup>2</sup>	作成者	瀬尾 忠治
建築面積	2,357 m <sup>2</sup>	確認日	2011年3月3日
延床面積	4,194 m <sup>2</sup>	確認者	瀬尾 忠治



3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	地域医療の中枢機関となる舞鶴医療センターの精神棟建替え工事において、精神科における治療に密接に関係する施設空間を自然の取り入れや家庭的な温かな雰囲気のある快適な場を創り、病院患者の家庭復帰をサポートする施設計画とします。また、舞鶴、国立病院機構の歴史、周辺からのプライバシーを考慮し、自然環境等の調和と周辺施設をリードする外装デザインで、心を和やかにする精神棟とします。	<b>その他</b> 医師及びスタッフ動線の簡略化、見渡しの良いゾーニングを行い、円滑な連携を可能にする計画で、負担の軽減を図り、より質の高い医療サービスが可能な施設を目指しています。
<b>Q1 室内環境</b>	あらゆる患者が共同生活の中で、治療を受ける精神科治療の難しさを十分に考慮し、病状によるエリア分けと各病室間の隔壁遮音を確保するとともに、空調エリアのゾーニング分けを行います。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 患者専用の中庭は患者の穏やかな心を誘発する植栽に囲まれた回遊型広場を設けています。また、レンガ調タイルを外装に採用し、舞鶴医療センターの歴史と舞鶴の持つ文化継承を図ります。
<b>LR1 エネルギー</b>	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量の削減を図り、エコキュートなど環境配慮機器を採用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 周辺建物への反射光を抑制する外装カラーとしています。また、西日遮蔽や室内環境的に良好な中間領域となるバルコニー面の外装ルーバーと庇効果により、ガラス面の反射を抑制するとともにプライバシーの確保を図る。
<b>Q2 サービス性能</b>	十分な広さと天井高を確保し、心理的圧迫感の軽減を図っています。閉鎖空間を創らないように光庭と一体となる自然を感じるデコナー（リフレッシュスペース）を設けています。また、温かみのある木素材の内装	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	衛生器具に節水型器具を採用しています。また、ルーバーやウッドデッキに再生木材を利用した素材を採用する。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される